

# 電動キックスケーター

電動キックスケーターが「地域の足」として注目を集めている。時速15〜20\*程度で走れる小型モビリティのシェアリングサービスが東京など都市圏で始まり、手軽な乗り物として利用できるようになった。観光地での導入も進んでいるほか、通勤用に個人が購入する例もあり、新たな移動手段として定着しようとしている。

「移動自体がアクティビティー。夫婦で借りる方もいる」。京浜急行電鉄が運営する観音崎京急ホテル(神奈川県横浜須賀野市)は4月、輸入車販売などのサンオートラスと、三浦半島で電動キックスケーターのシェアリングサービスを始めた。専用のスマートフォンアプリで利用登録し、ホテルで

## 近距離移動に新「相棒」



京急は観光客向けに観音崎京急ホテルでシェアリングサービスを始めた(神奈川県横浜須賀野市、写真上)。個人購入も増えており、SWALLOWは毎週末試乗会を開いている



原付き免許証を提示すれば夏以降、台数と乗り捨てできる拠点を増やす計画だ。神奈川県藤沢市では、レンタサイクルを手掛けるNPO法人「湘南ローカルウェーブ」が昨年12月から2台をレンタルしている。

同ホテルの竹内健人氏は「もともとサイクリングやドライブの人気エリア。回遊性が高まり観光資源をフルに生かせる」と話す。現在は2拠点で4台の貸し出しだが、今

## 通勤や観光地周遊 シェアサービスも続々

#電動キックスケーター。折り畳んで持ち運びできる種類もある。日本では法令上「原動機付き自転車」に該当し、公道を走る場合、原付き1種の運転免許やヘルメットの装着のほか、原付きの規格に合わせた部品やナンバープレートの設置も必要。欧米など海外では2〜3年前から都市部を中心に普及し、2025年の世界市場規模は400億〜500億\*になると見込まれている。

### ハッシュタグ #hashtag

大輝社長は「今後は、高齢者も安全に乗れるモデルを導入したい」と先を見据える。千葉市でも、はじめるカーの長谷川工業(大坂市)によるヘルメット着用任意の実証実験が4月末から進む。市の担当者「移動手段としてだけでなく、乗ることを目的とした観光資源にもなり得る」と今後の可能性に期待する。

を認可した。これを受けLuup(ループ、東京・渋谷)やEXX(エック、東京・港)など4社が首都圏などでシェアリングサービスを始めた。国内ではこれまで電動キックスケーターは「50cc以下の原付きバイク」の扱いで、免許証やヘルメット着用が必要だった。これが普及のハードルだったとされ、特例措置では、時速15\*までに抑えれば「小型特殊自動

車」としてヘルメット着用無しの乗車が可能となった。首都圏などで、自治体を巻き込んだシェアリングサービスが相次ぎ登場している。国内ではこれまで電動キックスケーターは「50cc以下の原付きバイク」の扱いで、免許証やヘルメット着用が必要だった。これが普及のハードルだったとされ、特例措置では、時速15\*までに抑えれば「小型特殊自動

# 神奈川

横浜支局 0445-2201-2255  
川崎支局 0445-2221-7793

(二村俊太郎)